



大阪市立大学  
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第13号

# 同窓会だより

1996年11月末日  
大阪市立大学工学部同窓会  
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目  
3-138 TEL 06(607) 8373  
FAX 06(605) 2769  
発行人 下田 隆二

## ごあいさつ

同窓会会長 下田隆二



工学部同窓会会員の皆様にはますますご健勝に活躍中のこととお慶び申し上げます。

昨年12月には人見先生を始めとする編集委員の先生方のご努力により、第8号会員名簿が発刊されました。これによりますと、平成7年3月の正会員数は8912名であります。九千人近い人材がわれわれの母校の工学部で学び、社会の広い分野で活躍していることを思うと誠に心強い限りであります。

昨年は磯村先生が大阪市長に当選されました。先生は経済学部昭和29年卒、経済学部長、大阪市助役を経て市長に立候補、見事ご当選、学識経験豊かで行政手腕にたけまさに大阪市長にふさわしい方と拝察致します。同先生を市長に選んだ大阪市民の良識に安心すると同時に、同窓からの市長誕生を誇りに思い、2008年のオリンピックまで頑張っていただいて、関市長に劣らぬ業績を残されることを期待したいと思います。

本年10月には、山本学長が「現在大阪市大の中は全員が興奮している」と言われた学術情報総合センターがオープンしました。文系の大学が一枚新設できると言われる予算（約300億円）で華々しく開設されたこの学術情報総合センターは、疑いなく大阪市立大学の評価を高めることになるでしょう。一見に値する立派なものであります。見た人はご自分の学生時代と比較し、例外なく現在の学生諸君の幸せを感じることでしょう。

私は今まで機会あるごとに「もの造りこそ国の繁栄の基本であり、もの造りを忘れた国は衰退の一途をたどることは歴史が証明している」ことを言いつづけてきました。若者の理工離れ、20歳未満の人口の減少などの影響を強く受ける今後の大学のあり方が色々議論されておりますが、このような問題が日本の将来を大きく左右することは確かでありましょう。このような現状をふまえて、工学部の正面に聳える学術情報総合センターは、大学の機能に大きなインパクトをあたえ、輝かしい未来を象徴するように感じられます。

しかし評価されるのは建物の外観や中身ではなく、そこでどれほど優秀な研究がなされ、いかに優秀な人材が輩出されるかということでもあります。同窓会会員の皆様には暖かく見守っていただき、ご協力、ご後援をお願いいたします。

大阪市立大学発足以来100年余の歴史の中で、工学部も旧制都島工業専門学校創立から数えますと半世紀をこえました。更なる発展をお祈りしてご挨拶と致します。（機械・昭和29年卒・シモダエンジニアリング株式会社社長）

## “同窓懇親パーティー1997”のご案内

日 時：1997年2月7日（金曜日） 18時40分～20時40分

会 場：新阪急ビル・スカイルーム

クラスや職場の同窓生をお誘い合わせの上、お気軽にご参集下さい。

詳細は、6ページをご参照下さい。

## 工学部の近況

### 名誉会長 多胡 進



ご清祥にお越しのことと存じ上げ  
お慶び申し上げます。いつも諸先輩に  
は、大学は大変お世話になり、私共一  
同まことに感謝しております。

大学改革は、学部教育の大綱化、大  
学院の整備充実、大学の管理運営の円  
滑化、これらのための自己点検・評価  
等によって進展しています。

大学設置基準を改正した大学教育の大綱化に沿って、平成6年度より全学で実施しました4年間一貫の大学教育は3年目になります。従来の教養課程と専門課程を廃止し、より高次の4年間一貫カリキュラムをつくり、学生の自学自習を尊重し、創造性をもった人材の輩出と大学の活性化を進めつつあります。

大学院の整備充実は、21世紀の社会をめざして重点的に適応させようと、諸事業の実施、制度改革が全国的に急激に実施されつつあります。大阪市立大学大学院工学研究科の整備充実、昭和54年度に「工学研究科の整備充実について」を本大学の大学院委員会に提出し承認されて以来、実現を図っている課題であります。平成7年4月に、生物応用化学専攻を開設し、平成9年4月からは、情報工学専攻修士課程及び生物応用化学専攻後期博士課程を開設するために文部省に申請協議を進めています。さらに、都市工学および材料開発工学などの総合工学あるいは先端の工学の領域の整備充実が課題になっています。工学研究科の充実のひとつであります社会人特別選抜による大学院生の平成7年度からの受入れは、社会の要請もあり、人数を増やしつつあり、長年にわたっての高度科学技術研究をまとめてもらえることになり、かつ学部などからストレートに進学してきた学生に刺激を与え、実効をあげつつあります。

今後、前期博士課程（修士課程）の進学希望の増加に応えること、将来の創造性の涵養や高度化と総合性が求められる人材像に応える大学院カリキュラムの改革など、国際都市大阪に立地する大学院としての基本課題もあります。このように基礎力・高度科学技術力・創造力をもつ人材育成を進めようとするとき、学部教育はますます重要な役割を果たすこととなります。総合大学の工学部として小規模ながら伝統をもつ本工学部の輝く蓄積を生かしていかなければなりません。6年一貫工学教育など他にない特質ないしは独自性の形成であります。

国では平成7年11月に科学技術基本法が制定され、これに基づく科学技術基本計画が平成8年7月に策定された。工学部においてもこれに対応するために、研究開発における地域社会との共同研究ないしは連携化の準備を進めているところであります。

大学では、長年準備を進めてきました「学術情報総合センター」が10月14日にオープンしました。工学部の学内LANは平成7年から稼働しており、これとATM方式のキャンパスLANがつながり、学術情報の受発信が世界に向けて可能になりました。直接の図書利用や情報処理、さらには学術交流とともに、外部から情報ネットワークを利用してもらえるようになりました。卒業生の皆様は、利用者カードを取得され大いに利用して下さい。

工学部も大きな潮流に向けて進展しつつあります。同窓の皆様には今後ともこれまでに変わりなく一層のご支援をお願いする次第です。皆様のご多幸をお祈りいたします。

(工学部長・建築学科教授)

## 機械工学科の近況

### 野邑 奉弘



寒暖の差が大きくなりそうな秋  
です。さぞかし今年の紅葉は美し  
くなるような気がします。卒業生  
のみなさまにはお変わりなくお過  
ごしのことと存じます。さて、今  
年は教養課程が廃止され、個性化  
を目指した新しい教育課程が実施

されてはや3年目になります。新入生から直接工学部に所属するこの教育改革は教員にとって学生が身近な存在になったことは確かです。学生にとっても機械工学科の学生としての意識が早くからもてるようになったのではないかと思います。今後は、より個性を伸ばしていくための地道な努力がより求められ、教員自身にも的確な教育手法の積み重ねが要求されています。この制度について卒業生の皆様方からもご助言を賜りますようお願いいたします。一方、大学院についてですが、一昨年から工学研究科の後期博士課程（以前の博士課程）において、社会人の特別選抜が行われるようになりました。これは企業や官公庁などに勤務する社会人が、在職中であっても正規の大学院生として入学できる社会人特別制度を設け、広く修学の機会を提供しようとするものです。この制度のもとで、今年、三菱電機と松下電器産業から計2名の社会人大学院生を迎えています。今後の発展が期待されています。この制度のもとで、学位取得という観点からも、卒業生の皆様の入学を期待しております。

この1年の機械工学科の人事ですが、3月に25年間教育と研究に積極的に携わっていただきました秋山貞夫先生が、甲子園短期大学の助教授として栄転されました。また、流体工学研究室の加藤健司助教授がこの4月から1年間英国に留学されております。

ただ一つ残念でならないのは、新聞などでご存じだと思いますが、本学名誉教授の吉田哲夫先生が短い入院生活の後、この8月にご逝去されました。心より先生のご冥福をお祈りいたします。

学生諸君の就職活動ですが、年々厳しい状況になっています。前期博士課程修了予定者は比較的早く内定がでたのですが、希望者全員の就職が内定したのは9月に入ってからでした。求人企業数は必ずしも昨年を下回っているわけではありませでしたが、人物本位とする企業の姿勢に、何人かの学生は第三希望でやっと採用していただいたという現状です。このような厳しい中、陰に陽に色々のご助言いただいた卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。なお、来年度は流体力学講座の東恒雄教授が学科主任として就職担当をされる予定です。

末筆ながら、卒業生の皆様の益々の御健勝と御活躍を心より祈念致しております。（機械工学科主任教授）

## 電気工学科の近況

青笹 正夫



今年の秋は少々雨が多いようで、一雨ごとに工学部B棟横のいちょうの木もあざやかに色づいております。卒業生の皆様におかれましては御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

電気工学科では今年三月電気機器学講座の藤井知生先生が定年退職されました。長い間本学科のためにご尽力いただき有難うございました。また電気工学科では昨年南繁行先生、草開稔先生が助教授に昇任されたのにひきつづき、今年四月には電子回路学講座の高橋秀也先生が講師に昇任されました。ドイツのカールスルーエ研究所に大電流イオンビーム・高電圧パルスパワーシステムの研究で出張されていた電気通信工学講座の中川吉郎先生が一月に帰任され、またハーバード大学医学部に磁気共鳴画像化法による生体内温度分布の画像化の研究で出張されていた電気回路学講座の黒田輝先生も9月に帰任されて再び陳容が充実すると共にさらに新しい時代に適応できる学科をめざして努力を続けております。特に今年度は電気工学実験、演習科目の充実を計りました。

また新聞などでご存じかと思いますが前電子回路学講座教授の北浜安夫先生がおなくなりになりました。ご冥福をお祈り致します。

さて学生の進路状況ですが、今年度在籍者数は学部四回生が49名、修士二回生が21名で留学生女子学生は在籍しておりません。このうち進学予定者は学部11名、修士1名となっており、就職内定者は学部28名、修士17名となっております。今年は景気の先行きに明るさが見えてきたようで、求人数も増え、800をこえる会社から求人をしていただき、推薦をした学生については早い時期に内定しました。進学については、後期博士課程への進学希望者は依然少ないものの、前期博士課程への進学希望者は多くありました。ただ昨年と同様合格者数が少ないため、進学を断念して就職に踏み切った者もありました。前期試験の結果が出て卒業見込のついた学生については引き続き就職推薦を致しますが、それを除いて今年は終了という状況です。就職に関して訪問していただいた多くの卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。

末筆ながら皆様の益々の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。  
(電気工学科主任教授)

## 応用化学科の状況

小槻 勉



新しく4年間一貫教育を目指したカリキュラムの改革から3年目を迎えてこの制度がやっと軌道に乗りはじめたところです。新制度で初めて入学した学生は、大きなトラブルもなく3回生の後期にはいることができました。卒業生の皆様におかれましてもご健勝にて活躍しておられることとお慶び申し上げます。

応用化学科では、昨年から今年にかけて人事の移動がいくつかありました。まず昨年4月に澤井圭二郎先生が助教授に昇任されました。また、昨年9月末日に鬼塚清孝先生が退職され、大阪大学に赴任されました。さらに、本年3月末日をもちまして矢野元威先生が、30年にも及ぶ市大での教員生活に別れを告げられ、後任に京都大学から米澤義朗先生が、反応・合成工学講座の教授として着任されました。また、新しく金沢大学から南達哉講師が有機工業化学講座に着任され、活躍しておられます。なお明年3年には青木修三教授が定年を迎えられる予定となっております。

長い間要望しておりましたB棟と大講義室の改修工事が本決まりになり、既に大講義室の改修工事が終わり見違えるように美しく生まれ変わりました。B棟の改修工事でも11月には始まります。学術情報センターの本格的な運用も始まりました。D棟の外側の改修工事は終わりましたが、応用化学科での懸案事項の応用化学科の学生実験室の整備は今回見送られました。

さて学生の就職と進学の状況ですが、求人企業数は、一昨年、昨年と更に下降傾向をたどりそれなりの定常値となりました。求人側と求職側の意識のズレから厳しい状況でしたが、学部、修士ともほぼ内定を完了しました。全国の大学での大学院重点化と収容定員の増加などもあり、最近、学部卒業予定者の約7割が、大学院進学を希望し、ほぼ全員が各々希望する大学院に進学しています。このような背景から、各大学院の修了予定者の増加と各企業の求人数の絞り込みなどから、学部に比べて修士の方が激戦でした。一方、全国的な趨勢ですが社会人の後期博士課程入学への特別選抜制度を発足させました。卒業生の皆様のなかからこの制度を利用して学位(工学)取得に挑戦される方が現れることを願っております。

末筆ですが皆様の益々のご健勝とご活躍を心から祈念致します。  
(応用化学科主任教授)

## 建築学科の近況

谷池 義人



昨年4月に建築防災講座に赴任し、1年後の今年4月に学科主任を仰せつかりました。学科内の事情に疎く、まごまごすることの多い日々が続いておりますが、多胡、成瀬の両先生を始め、教室の皆様方の御指導、御支援に支えられて、精一杯務めさせて頂いております。昨年に引き続き今年の6月には市大建築会の総会に、また、今年の9月には同東京支部会の同窓会にも出席させて頂き、溝神会長を始め、建築学科のOBの方々と一緒に懇談する機会に恵まれました。特に、東京支部会では、屋型船に乗って隅田川を下り、東京湾の夜景を楽しみながらの総会（大宴会？）となり、大いに座が盛り上がりました。今後ともよろしく御願い申し上げます。

さて、今年度の新入生は、学部40名（内女子7名）、大学院前期（修士）が12名（内女子3名）、大学院後期（博士）が2名でした。女子学生の増加が大学院にまで及んでいます。院生の女子は、勉強意欲が旺盛で積極的に建築知識を吸収し、それぞれの建築観と目的意識を持っているようで、将来が楽しみです。

次に、学生の進路状況は現在のところ次のとおりです。学部4年生は35名中、大学院進学10名、就職内定21名（官公庁2名、建築会社7名、設計・コンサルタント6名、プレハブメーカー3名、その他2名）、公務員試験結果待ち2名、留年希望2名となっています。また、院2回生は10名中、就職内定7名（官公庁1名、設計・コンサルタント5名、ガス会社1名）、公務員試験結果待ち2名、未定1名となっています。昨年度は学部生・大学院生共に、全員が卒業し、進学・就職することができました。今年度は留年希望者が2名いるものの、地方公務員試験の結果待ちを除くとほぼ全員の進路が決まり一安心しております。今年は昨年と比べると、建築関連企業の業績が悪化しているところが多く、就職戦線も相当厳しいものがありました。先輩方の直接・間接の御支援及び学科教員の協力のおかげでこのような良い就職結果を得ることができました。心より感謝申し上げます。

学科の人事異動につきましては、昨年12月に建築計画及び建築史講座の助教授をされていた福田晴慶先生が九州大学工学部建築学科の教授として、今年4月には都市計画講座の講師をされていた浜田学昭先生が和歌山大学システム工学部の教授として、それぞれ転任されました。両先生は20数年にわたり、本学科の教育・研究に尽くされ、これまでに数多くの卒業生を世に送り出し、また優れた研究業績を挙げてられました。両先生の転任は本学科にとり、大きな痛手ではありますが、教授としての御栄転ですので、心より御祝い申し上げたいと思います。

両先生の今後の益々の御活躍をお祈り申し上げるとともに、これまでの御指導・御支援に厚く感謝申し上げます。なお、今年10月より、赤崎弘平先生が都市計画講座の講師に昇任されました。

大変悲しい出来事ですが、本年4月28日に名誉教授の田中良太郎先生が御逝去されました。先生は本学科の創設に御尽力され、建築衛生学（環境工学）講座の初代教授として長年にわたり重責を担われてられました。享年89歳でした。心より御冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の皆様方の益々の御発展と御活躍をお祈り申し上げます。（建築学科主任教授）

## 土木工学科の状況

西村 昂



新入生44名（内女子5名）、大学院前期13名、後期1名（社会人）のフレッシュマンを迎えて新年度がスタートした。修士の入学者が少ないのは新専攻の申請を控えて定員順守を徹底するためであり、募集人員を前年度より大幅に減らしたため多くの希望する学生の受入れができなかった。教員では新任の石丸助手を迎えた。

4月より小田教授が中井教授の後任の評議員に選出され、会議が増えて学生との対話の時間がとれないと歎くことしきりである。4月には学生のための就職ガイダンスを2回開催し、各分野のOBにご協力を頂いた。5月には土木会の恒例の総会が開催され、吉村会長、山田幹事長、旧教員の先生方をはじめ広くOBが集まって楽しい夕べとなった。

春の叙勲では名誉教授の三瀬貞先生が勲三等旭日中綬章を受けられた。土木では定年退職された教授では岡部、倉田両先生に次いで3人目である。6月19日にはその祝賀会が山田教授の世話役で開催された。誠に目出度いことであった。

大学に大学史資料室というのがあり、大学の歴史の一部分をクローズアップして資料展示をしているが、5月より半年間にわたり、工学部の源流としての都島工専の歴史を展示中である。このため機械、電気、建築、土木の関係4学科が協力を求められ、土木では工専の各卒業年次の代表の方々にお集まり頂き、さらに卒業生全員に資料、写真等の提供を呼びかけて頂いたかなりのものが集まり、その一部が展示されている。これを機に手記なども加えて側面史をまとめたという気がする。中井教授は今年度2つの国際会議の企画に関係され多忙である。園田教授等も9月に全国から関係者を市大に集めて衝撃問題に関する2回目のシンポジウムを開催された。高田教授等は上海の同済大学の土質グループとの学科レベル

の学科交流を長年実施され、今年も3名を招待され、また本学から望月助教授と大島助手が11月に出張の予定である。土木の他の方々も夫々に御活躍中である。

土木の取組むべき大きな課題に新学科の問題がある。建築と土木の2学科で都市工学科をつくる構想であるが、両学科のこれまでの話し合いで広い一般の都市工学科ではなく環境、防災に重点を絞った環境都市工学科（5講座）とする方向でまとまりつつある。このため土木も1講座を減らして5講座となる予定であり、平成10年度開設を目標に議論を進めている最中である。

科学技術基本法の制定、科学研究基本計画の策定、大型の研究開発予算、大学教員の任期制の導入など大学をとりまく環境が変わりつつあり、産官学の協力が一層重要となっている。一層のご支援をお願いする次第である。

（土木工学科主任教授）

## 応用物理学科の近況

増岡 俊夫



あのいまわしい阪神大震災から1年8ヶ月あまりで阪神高速神戸線も開通し、景気の方もいくぶん明るさのみえる今日このごろ、みなさま御健勝にお越しのことと存じます。今年初めての、新米の学科主任には荷の重い出来事がいろいろありますが、応用物理学科の和と前進のために何とか勧めさせていただいております。

応用物理学科の近況ですが、長年学科のためにつくしていただいた人見先生が3月末に退職されました。摂南大と阪南大の非常勤講師を勤めておられます。4月には数理工学講座の高根助手が講師に昇任され、また8月には同講座の小川助教授が東北大学理学研究科へ転出されました。現在、その後任人事を進めています。10月にはレーザー工学及び電子物理学講座の藤井講師が助教授に昇任され、プラズマ工学講座に小林（あたる）講師が金沢工業大学から着任されました。小林先生は独自に着想された方法で、電界イオン化過程を利用してスピンの偏極した $H e^+$ イオンを生成し、電界イオン化過程の微視的機構を解明しようと意気込んでおられます。これで、プラズマ工学講座は増岡、三村、小林の3名で担うことになりました。平成6、7年に全学の教務部長を勤められた西村教授は、学内事情のために平成8年度も再任され、非常にお忙しい状況が続いています。

学生の進路状況については、まず院生（M2）は在籍数10名中8名の就職が内定し、1名が後期博士課程に進学を予定、残り1名が私学の高校教員をめざしてなお就職活動を続けています。学部4回生については、10名が当学科の大学院へ進学を予定し、4名が阪大理学部や工

学部、大阪府立大学総合科学部へ進学を予定しています。就職については、希望者16名の内13名が内定し、残り3名がなお就職活動を続けています。

景気が後退して、財政状態がけっして芳しくない中で、大阪府が約300億円という破格の予算で建設を認めてくれた学術情報総合センターは、10月14日に開所式が行われ、10月15日から一般利用に供されています。『図書と情報の館』として、全国的にも注目される機能と情報を備えておりますので、ぜひ一度、足を運んでいただければと念じております。

最後になりましたが皆様の一層のご活躍、ご発展をお祈りいたします。（応用物理学科主任教授）

## 情報工学科の近況

辰巳 昭治



今回初めて学科主任を担当しています。同僚の先生方のご協力を得、役目を遂行しています。今年は去年と異なり、大きな天変地異は発生せず、心配していました7月末の前期試験も暑さに困らず、後期授業も事も無く進んでいます。

みなさん方もご健勝のことと存じます。

今年度、15名（内女性3名）が学部に入學しました。また、教育課程改革の恩恵を受けた3回生は、取得単位数を確認しつつ、現在後期の講義・実験に真剣に取り組んでいます。3回生から4回生に進学するための進学条件以上の単位数を取得する必要が生じたためです。教育課程改革に伴ない、3回生はこれまで以上の独創性を持った指導的技術者・研究者育成の成果が問われる一期生となります。我々教員は真剣かつ暖かく学生達の指導を行う所存です。

一方、学科設立時からの念願であり、学部長、事務長はじめ関係の皆様方のご協力を得、来春大学院開設に向け準備を進めています。このため、来春学部卒業予定者19名のうち、大学院進学希望者11名は、来年3月に進路が確定することになり、希望とともに少々不安を感じながら、卒業研究に打ち込んでいます。残り8名の学生は就職が内定し、残り少ない学生生活の充実に向け、研究に励んでいます。今年就職状況は、ここ2・3年求人無かった企業からも求人いただき順調に決定しました。これも卒業生のご活躍のお陰と感謝しています。

今秋、大阪市当局の多大なご支援のお陰で、学術情報総合センターが開設されました。当学科では、企業の協力を得、藤原教授の企画立案のもとで、キャンパスLAN（OCUNET）を通して、開設記念式典の模様を主会場と副会場、動画像による2元中継を実施しました。その後、杉山助教授による「複数移動ロボットのシミュ

レーション」、中島助手による「フラクタルとGAの視覚化」、北村助教授による「マルチエージェントによる協調問題解決」を2元中継による遠隔講義を実施し、記念式典に花を添えました。

情報工学科教員の移動は、北村先生が講師から助教授に昇任されました。学科構成員全員が市大工学部の教育研究の充実、また、大学院後期課程設立に向け、頑張っていく所存ですので、卒業生の方々の力強きご支援を賜りますようお願いいたします。

最後に皆様のご活躍とご発展をお祈りいたします。  
(情報工学科主任教授)

## 生物応用化学科の近況



玉垣 誠三

4月から学科主任をおおせつかって早半年が過ぎた。仕事は忙しい。授業、研究指導、学会業務をこなしながらだから、緊張の連続である。それでも何とかこなせているのも、暖かく相談に乗って頂ける先生方及び皆様のお力添えの賜と、この場をお借りして感謝申し上げる次第です。

当学科も平成2年に誕生して既に満6歳。今春には3回目の卒業生を送り出した。進路先は名簿の通り。来春卒業予定者16名のうち、就職希望者4名については、全員内定。残りの進学希望者には、学外者を含めて、昨年4月開設した生物応用化学専攻修士課程試験に挑戦して頂き、定員どおり10名を合格とした。また、来春第1回修了者のうちの就職希望者も凡て内定しています。就職担当として、社会的にも生応化が認知されてきているのを実感できるのは望外の喜びです。目下、学部長はじめ関係教職員のご指示を仰ぎつつ、生応化教員一同、後期博士課程開設準備に余念がありません。進学を希望する学生、高度な研究を望む社会人にチャンスを与えるため来春開設に向けて鋭意努力しています。

教員構成は、昨年住友林業から東助手をお迎えした以外、前号のときと本質的に変わりません。念のためお知らせしておきますと生物工業化学講座：仲矢忠雄教授、笠井佐夫助教授、北村昌也助手；生物化学工学講座：加藤錠治教授、大嶋寛助教授、東雅之助手；生体機能化学講座：玉垣誠三教授、長崎健助教授；生体材料工学講座：木下雅悦教授、山内清助教授、北条裕信講師；工学部共通講座：荻野健治教授。どの先生も元気元気。

2000年は目前。来世紀は一層科学技術が重要になります。7月、国会で成立した科学技術基本法を受けて策定された「基本計画」も閣議決定された。我々の研究も大型予算17兆円の影響を受けるものと予想されるが、基礎科学に振り向けられるのは多くなく、産官界のハッスル

ぶりが気になる所である。我々は、多様化社会の要求に対応できクリエイティブに能力を発揮出来る場を提供できるよう自ら変革を遂げ、様々な制度と施策、細かな配慮を通じて優秀で意欲のある学生を集め育てよう、と頑張っています。生物応用化学科は時代のニーズ。今後とも同窓会先輩等諸氏のご支援お願い申し上げます。

皆様のご活躍と益々のご発展をお祈りして近況報告とさせていただきます。  
(生物応用化学科主任教授)

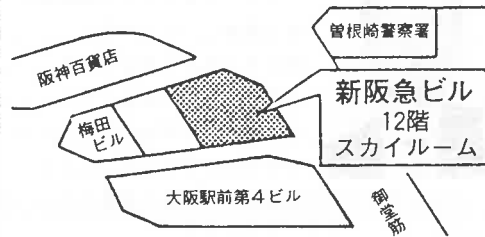
## 同窓懇親パーティー1997のご案内

主 旨…同窓生の学年や学科を越えた交流と親睦を促進するため開催しています。是非ご参加下さい。

日 時…1997年2月7日(金)18時40分～20時40分

会 場…新阪急ビル12F スカイルーム

(TEL 06-345-4127)



会 費…7000円 (当日18時より会場で受付)

申 込…氏名・学科・卒業年次(お誘いの同窓生も一緒に)をハガキまたはファクスで1月25日までに同窓会事務局へご連絡下さい。



卒業を祝う鏡割り風景(平成8年3月22日、工学部内庭にて)

菌頭 健吉



平成七年工学部を定年になり、現在、福井工業大学に勤務しています。阪大産研、市大（原研、工学部）併せて34年の大学生活でした。産研、原研では、研究が中心で教育は大学院だけでしたが、最後の7年間は工学部の高等基礎教育に参加できたのは貴重な体験でした。定年後の一年間は、残務整理や新しい環境への対応に追われましたが、2年目になると体力や環境の変化に意識の自己改革で順応し、人生を楽しむ余裕もできました。先輩の言によると、定年後の人生は10～15年単位で設計する必要があり、70歳代に緩やかに訪れる第2の定年に備える必要があるそうです。個人の場合は、自然界の摂理でもある誕生、生長、繁栄、衰退のサイクルの最終過程を自己改革で順応して素直に受け入れるしかありません。

絶えざる生長、発展が要求される社会では、構成単位である個人サイクルを巧く組み合わせた制度（定年制 etc）でその老化を防いでいます。社会制度の老化は改革で防げます。絶えざる生長と発展が要求されるのは大学でも同じです。明治に誕生した日本の大学は、第二次大戦の敗戦を機に新制大学への改革で対応し、日本経済の復興と発展に貢献してきました。いま日本経済は発展への高度成長が停止し、グローバルな産業構造の変革の波の中で、バブルの崩壊と構造不況の長期化に悩んでいます。従来の「基礎研究ただ乗り論」を払拭して、画期的な独創性を持った技術を開発する以外に発展への道はありません。これまで以上に独創性ゆたかで高度な専門能力をもった人材が求められているのです。

文部省は、大学院の重点化を中心とした一連の大学改革で、この荒波を乗り越えようとしています。大学院の重点化とは、文字通り教育・研究の中心を大学院に移すことであります。同時に、大学共同利用機関と連係させた博士後期課程だけの総合研究大学院大学も発足させています。

大阪市大には、新制大学の発足を機に、「新しい研究村づくり」と評され、時代を先取りした理工学部を創設し、全国の俊才を集めて華々しい生長と発展を遂げた歴史があります。この改革は僅か10年で理学部と工学部に分離し、後年、日本のMITになり損ねた市大理工学部と評されたように、当初の期待とは違った方向へ発展しました。今回の大学院重点化の波は、大学高等教育改革に対する時代の要請でもあり、市大工学部としてもさけては通れません。創設時の歴史的教訓を背景にした、時代を先取りし、同時に“国立大学のコピーでない”大阪市大らしい独自の改革案で、工学部に新しい活性化のエネルギーが注ぎ込まれることを期待しています。

大阪市立大学での思い出

川村 純夫



32年間の大阪市立大学工学部在籍中の思い出を時系列に記してみたい。

〈扇町時代〉

昭和37年4月京都大学防災研究所より、大阪市立大学工学部建築学科建築構造学講座（日置教授）

の下に講師として赴任した。校舎は老巧著しく研究設備も殆どなかったが、学生教職員ともに情熱あふれる雰囲気であった。さほど多くはなかった予算から日置教授のご好意で振動計測機器を購入して頂き、研究室の助手、院生、学部学生の諸君と一緒に大阪地域を中心に基礎の防振、建物の振動障害の対策、焼けビルの耐力診断等を行いその一部は、学生の卒業論文、学会発表等に楽しく過ごした時代の思い出は今も鮮烈である。

〈杉本町時代第一期（昭和40年～47年度）〉

昭和40年4月工学部が杉本町へ移転した。新築なった杉本町学舎へ、科学研究費等もあわせて精密加振装置を導入したりして、従来からの地域からのニーズなども受けと振動障害の対策等を学生とのんびり楽しく行っていた。

たまたま、昭和45年大阪万博開催に伴うアメリカ館の耐風安定性の審査を担当することになり、この時風洞実験施設の必要性を痛切に感じた。幸いにして、大阪市立大学在外研究員として当時最も風洞施設の完備したアメリカコロラド州立大学 Dr.Cermak 教授のもとに約1年間風工学の研究と同時に関連する実験施設の調査研究が出来た。

〈杉本町時代第二期（昭和48年～63年度）〉

昭和48年教授になった年、念願の風洞装置が文部省と大阪市の研究費で、また風洞実験室が田中名誉教授を初め、大阪市、大阪市大建築会の皆様方の並々ならないご協力のもとで完成した。以後この施設を利用して200件を越す調査研究を行った。特に大阪市及び地域の各方面の賛同を得て竣工後、実測を行う機会を比較的多く与えられ風洞実験結果の検証を自ら行えたことは恵まれた環境であったと今も感謝している。

〈杉本町時代第三期（昭和63年～平成7年度）〉

評議員2年、学部長4年、主として学術行政面の一端を担当することになるが、あまり得意な面でなくかろうじて学科増設と寄附講座開設にめぐりあわせたが、先人の敷いてあったレールをひたすら走ったという感がまだにする。

最後に小生にとって大阪市立大学工学部は、非常に恵

まれた出会いであった。

〔大阪市立大学名誉教授（元建築学科教授）〕

## 原子力基礎研究所より工学部へ

勝俣 五男



平成7年3月退職後既に1年半が過ぎました。私はいわゆる原研行革で平成元年4月、応用物理学科に創設されたプラズマ工学講座に移籍した者です。同窓会の皆様には見慣れない名前とお感じになられる方も多いかと存じますが、

今後ともよろしくお願い申し上げます。

先ず自己紹介をさせていただきます。生まれた所は富士山の北麓です。裾野から頂上まで何一つ遮るものなく富士を一望できる家に育ちました。大学院から大阪にお世話になり、そのまま大阪に居着いて今日に至っております。昭和29年に市大の理学研究科に入学し、宇宙線物理学を専攻致しました。その間約7年間、初夏から、初冬にかけて乗鞍岳の宇宙線観測所にこもり、物理学の研究と体育（スキーと冬季登山）の訓練に励みました。

昭和36年、当時の原子力調査研究室に助手として採用され、プラズマ・核融合の研究を始めました。この研究室は昭和44年、大阪市立大学原子力基礎研究所へと発展しました。私にとって、原研就職から、フンボルト基金によるドイツ、ミュンヘン近郊ガルヒンのマクスプランクプラズマ物理研究所留学から帰るまでの間の研究生生活は、スリリングで、緊張感の充実した思い出となっております。この間の研究により、それまで方法の無かった磁界中プラズマのイオン温度測定法を完成することが出来ました。その後の研究テーマは、高温・高密度プラズマ生成、プラズマ計測用のイオンビーム生成へと展開し、工学部で定年を迎えるまで続けました。

原研時代既に昭和48年度より大学院工学研究科応用物理学専攻の授業兼担を始めておまして、多くの卒業生との共同研究は懐かしい思い出となっております。これらの諸氏とは再会を期待したいものです。

旧原研から工学部へ教員が10人移籍しました。この10人の移籍はその後の工学部の新学科、新専攻の開設にとって大きなインパクトとなったことと思っております。昭和60年11月1日の大阪市政行財政改革推進本部より発表された「当面の行財政改革についての基本方針」の中で「大学における研究所のあり方の検討」があげられ、「原子力基礎研究所について、関連する学部との統合を含め、そのあり方を検討する必要がある。」とあります。当初の市側の条件は例えば大学側に残す籍は6名という話もあり厳しいものでした。なんとか頑張って原研廃止予定日に在籍する13名を工学部10名、生活科学部3名移

籍ということに漕ぎつきました。

こんな事情の中で工学部に暖かく迎えていただきましたことは感謝にたえないところです。

最後に私自身の近況ですが、再就職はせず、若手のプラズマ・核融合研究者との共同研究、或いは在籍時から続いているヘラ鮎釣り、又、最近では海釣り、溪流釣り等も楽しみながら元気しております。

皆様のご健勝をお祈り致します。

〔大阪市立大学名誉教授（元応用物理学科教授）〕

## Etwas neues !

矢野 元威



35年前、高知から市大の大学院を受験するため工学部の南校舎を訪れました。そこは北区南扇町の水道局と読売新聞に挟まれた元小学校の薄汚い校舎でした。しかし一歩中は廊下にまで備品やデスクが溢れ、日本の科学技術の一端は我々が担っているという生き斐いと希望に燃えた先生や学生、院生が昼夜をわかつず研究されていました。

私をご指導下さることになる井本立也先生の教授室は昔の便所の香も残る小さな部屋でした。当時、新制大学では旧制高校の施設を建て替えている時代で、高知の先生方が新しい部屋割りに一喜一憂されているのを見ていた私に、市大での情景は都会での研究の場を得ることの厳しさを思い知らされました。

大学院の入試が印象的でした。試験場は藤代先生の教授室でした。先生は「大学院の試験は学部入試と違うから気楽にやりなさい、キャラメルでもどうですか？」と言って紅茶とキャラメルを出して下さいました。ドイツ語の試験では「辞書がなくては大変でしょう、借りて来てあげましょ」と辞書を配って下さいました。この時、大学らしいアカデミックさと家族的親しさを感じました。今日の管理主義とは昔日の感があります。そのような訳で研究生生活は恵まれていました。昼は扇町公園でソフトボールに励み、日が暮れば夜窓から射込むネオンの誘いを横目に研究の進め方や人生論、はては政治談義にふけたものでした。研究のモットーは“Etwas neues!”でした。真夜中の地下室の卓球台にも御世話になりました。手拭いと石鹸を持って人通りも少なくなった阪急東通りの風呂屋に通った事も思い出されます。学校に帰ってみると門限を過ぎていて、塀をよじ登って守衛さんにしかられたものです。

研究の環境はと言うと当時の電力事情もあり、夕暮れの実験も佳境に入ると言う時、決って停電です。そんな時、中庭の電気室に駆込んだものでした。夏は真夏日が続きます。アメリカでは「30度以上の所で研究など



……」と言う記事が紹介されていた時代です。しかし心に緊張と希望がありきました。外国の情報も今程多くなく、外国から帰られた先生方の帰国報告会では、明日は我が身と心を弾ませて、聞入ったものでした。

最初の学会発表会場の事も思い出されます。緊張の余り、昼食も喉を通らず、西君と二人で発表の策を練っていました。

昭和39年夏、杉本町に移りました。白亜の壁、真新しい実験台、窒素と真空の配管も施されていました。確かに扇町の学舎に比べると素晴らしい建物でした。しかし古い扇町の装置が新しい部屋に運び込まれるに従って、その不釣り合いさを感じた人は多かったと思います。「新しい器には新しい酒を」どこかで聞いた言葉です。

あれから30年近く経ちました。当時を思い返せば、外見上は全く素晴らしい環境になりつつあります。過日都立大学の先生と話しているとき、市大の情報センター建設費のことに触れたとき、都立大学の先生は「内なぞ、全学の移転費で1千億円でしたよ！ゼロが一つ違うのではありません！」と言われた程です。

阪和線の踏切から望む風景は見違えるばかりです。D棟もこの春、外装の塗装を終え、今学期はAとB棟の一部改装が行われると聞いています。

皆様の日々の弛まぬ努力の成果が実り、器にふさわしい葡萄酒が醸される事を期待しています。

〔大阪市立大学名誉教授（元応用化学科教授）〕

して大変残念に思っていました。

その後定年までの30余年、胸の片隅には常に、工学部の日常的な運営のベースである理念がもつと個性的で明確にされ、工学部や大学院工学研究科の存在意義にもより明白な説得力が欲しいとの思いがありました。

今日、市大の近隣には伝統と実績のある京大や阪大を含めた国公立5大学に6工学部が存在し、それらの学生数や予算額は市大工学部が規模的な競争を断念せざるを得ない程大規模化しています。それだけに工学部を囲む環境は非常に厳しいのですが、教授の先生方には助講会や助手会の皆さんの若い英知をも結集していただき、その様な厳しい競合状態に於いても、市大工学部が胸を張って社会的に認知され得る存在であり続けられる体制を築いて頂ければと思います。この様な思いは、多分、殆どの工学部同窓生が抱えてきた母校への願望でもあらうと推察します。

工学部や大学院工学研究科の評価には、科学技術に関する高度な専門知識を精練して体系化すると共にそれに基づいて科学技術の専門家を育成すると言う、社会的役割を担うための理念、手法（システム）および卒業生等のユニークさが主要な尺度になるように思います。市大で実現可能な予算や運営システムが熟慮されて、ユニークな教育・研究理念とその日常的運営への適用システムが再構築され、市大工学部や工学研究科の社会的な存在感がより一層高まることを願っております。

（元応用物理学学科講師）

## 工学部への思い



### 人見 宗男

1962年（昭和37年）4月、卒業研究をご指導下さった故東野一郎先生が大東俊一先生の後任教授になられた際、そのお誘いで工学部応用物理学科の助手として卒業時の講座に戻りました。しかし、当時私は、創設期の関西大学大工学部での田中行雄先生との精密加工の基礎研究が軌道に乗ったばかりの時期で、大変迷いましたが、母校をより良くすることに微力ながら協力出来るのならとの思いから、関大工学部の新築学舎とは雲泥の卒業時そのままに汚れた古い扇町学舎の分室に戻った次第です。

その応用物理学科は、1959年の理工分離の際に僅か3講座で創設された学科でしたが、そこには私が学んだ理工学部の創設理念がまだ生き続けていると思いました。しかし、市大工学部として理工学部のユニークな創設理念を発展的に継承されたのか、甚だ疑問を感じていました。その上に、理工学部時代の優秀な先生方が他大学に新設された理・工学関係の学部へ次々と転出される状況を目にし、母校への思いを胸に戻ってきたOBの一人と

## 事務局年報（'94・12～'96・11）

'94年12月…会報第12号を発送（12日）。

'95年1月…市大コンサートバンドの中国訪問演奏旅行に市大連合同窓会として援助（26日）。

2月…第9回評議員会及び同窓懇親パーティーを新阪急ビル・スカイルームにて開催（3日）。市大広報第24・25合併号を購入・配布（22日）。

3月…'95年度入学手続者に当会案内・会費払い込要請状を配布（13日、26日）。工学部送別式・鏡割りに会長及び理事有志が出席（25日）。

5月…市大広報第26号を購入・配布（25日）。第104回市大ボート祭に協賛（27、28日）。第8号会員名簿を関西広済堂(株)と発注契約（30日）。

7月…工学部学術情報センターにファックスを寄贈（19日）。新入生・卒業生の未納会費を督促（25日）。

9月…市大広報第27号を購入・配布（11日）。

11月…第12期第1回理事会を開催（24日）。

12月…第8号会員名簿の発送を開始（5日）。市大広報第28号の購入・配布（12日）。

（19ページにつづく）

工学部の電話番号[06-605-(下記番号)] (1996. 10. 1. 現在)

| 機械工学科      | 電気工学科      | 応用化学科      | 建築学科       | 土木工学科      | 応用物理学科     |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 福田 武人 2660 | 鈴木 裕 2676  | 小槻 勉 2693  | 谷池 義人 2764 | 園田恵一郎 2722 | 美馬 宏司 2742 |
| 元木 信弥 2661 | 南 繁行 2760  | 澤井圭二郎 2694 | 木内 龍彦 2706 | 小林 治俊 2723 | 曾我部 伸 2740 |
| 逢坂 勝彦 2962 | 黒田 輝 2787  | 五百井正樹 2977 | 谷口 徹郎 2707 | 鬼頭 宏明 2723 | 藤井 康夫 2738 |
| 野邑 奉弘 2663 | 志水 英二 2678 | 小澤 文幸 2884 | 坂 壽二 2708  | 石丸 和宏 2723 | 西村 仁 2739  |
| 西村 伸也 2664 | 高橋 秀也 2679 | 南 達哉 2980  | 藤本 益美 2989 | 高田 直俊 2724 | 中山 正昭 2739 |
| 伊與田浩志 2963 | 重田 和夫 2761 | 丸山洋一郎 2885 | 那谷晴一郎 3076 | 望月 秋利 2726 | 北田 忠義 3089 |
| 東 恒雄 2666  | 青笹 正夫 2680 | 青木 修三 2697 | 谷口与史也 2709 | 東田 淳 2725  | 森 雄造 2743  |
| 加藤 健司 2665 | 草開 稔 2681  | 圓藤紀代司 2698 | 成瀬 哲生 2710 | 大島 昭彦 2996 | 笹沼 道雄 2744 |
| 脇本 辰郎 2965 | 前川 義治 2763 | 松本 章一 2982 | 西岡 利晃 2992 | 山田 優 2727  | 橋本 秀樹 2741 |
| 南斎 征夫 2667 | 田中 健司 2681 | 米澤 義朗 2770 | 新居 洋子 2711 | 真嶋 光保 2780 | 増岡 俊夫 2879 |
| 深井 完祐 2668 | 松下 賢二 2792 | 朝見 賢二 3080 | 大倉 良司 2711 | 貫上 佳則 2728 | 三村三木夫 2880 |
| 吉岡 真弥 2967 | 中川 吉郎 2878 | 山田文一郎 2797 | 多胡 進 2712  | 西村 昂 2730  | 小林 中 2880  |
| 上神謙次郎 2662 | 宮崎 大介 2877 | 三浦 洋三 2798 | 杉山 茂一 2713 | 日野 泰雄 2731 | 中村 勝弘 2768 |
| 森元 時夫 2670 | 建部 渉 2687  |            | 徳尾野 徹 2713 | 岡村 治子 3077 | 高根 美武 3090 |
| 若林三記夫 2969 | 山田正一郎 2686 |            | 土井 幸平 2715 | 小田 一紀 2732 |            |
| 守田 栄之 2671 |            |            | 赤崎 弘平 2717 | 角野 昇八 3078 |            |
| 瀧山 武 2672  |            |            | 三木 信博 2993 | 重松 孝昌 2733 |            |
| 中山 守 2673  |            |            | 田中 康夫 2718 | 中井 博 2734  |            |
|            |            |            |            | 北田 俊行 2765 |            |
|            |            |            |            | 中西 克佳 2735 |            |
| 情報工学科      | 生物応用化学科    | 事務室等       |            |            |            |
| 濱 裕光 2772  | 仲矢 忠雄 2782 | 教務係 2653   |            |            |            |
| 柳原 圭雄 2773 | 笠井 佐夫 2783 | 庶務係 2651   |            |            |            |
| 細川 省一 2683 | 北村 昌也 3091 | 図書分室 2657  |            |            |            |
| 岡本 次郎 2684 | 加藤 錠治 2699 | 守衛室 2096   |            |            |            |
| 中島 重義 3096 | 大嶋 寛 2700  |            |            |            |            |
| 辰巳 昭治 2688 | 東 雅之 3092  |            |            |            |            |
| 北村 泰彦 3081 | 玉垣 誠三 2695 |            |            |            |            |
| 藤原値賀人 2689 | 長崎 健 2696  |            |            |            |            |
| 岡 育生 2779  | 木下 雅悦 2702 |            |            |            |            |
| 村治 雅文 2976 | 山内 清 2703  |            |            |            |            |
| 村田 正 2795  | 北條 裕信 3094 |            |            |            |            |
| 杉山 久佳 2796 | 萩野 健治 2799 |            |            |            |            |
|            | 串部 宏之 2747 |            |            |            |            |

編集後記

大勢の児童が大腸菌O157の予期せぬ逆襲に晒され、目に見えぬ細菌の脅威に脅えた1996年でしたが、会員の皆様やご家族は大丈夫でしたでしょうか。昨年1月の阪神大震災に続くこの出来事は、人間社会の安全性に対する啓示のように思えます。

さて、昨年は会員名簿第8号の発行のため会報は休刊いたしましたので、1995年及び1996年の卒業生と新入生の名簿は、ここに2年分を一緒に掲載しました。そのため、正会員や支部等への投稿依頼は割愛して、両年にご定年の7名の先生のみにご投稿をお願いし、菌頭健吉(応化)、川村純夫(建築)、勝俣五男(応物)、矢野元威(応化)、人見宗男(応物)の5名の先生がご寄稿下さいました。是非ご一読下さい。また、来年と再来年も続けて会報を発行する予定ですので、その節にはご協力をお願いします。なお、本号には、来春2月7日に2年振りに開催される「同窓懇親パーティー1997」に一人でも多くの会員の方々が積極的にご参集下さるよう、ご案内を掲載いたしましたので、是非ともご活用願います。

ところで、最近、杉本キャンパスでは学舎や周辺の整備と拡充が一段と進展し、工学部の東側にはこの11月に学術情報総合センターが竣工しました。そして、工学部の正面玄関の周辺も、すっかり様変わり致しました。チャンスを捻出して、是非一度お立ち寄り下さい。

それでは、より安全な社会を祈念して、良い新年をお迎え下さい。(M.H生)

編集委員

南斎征夫(機39) 建部 渉(電35) 大嶋 寛(化49)  
赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 北田忠義(物36)  
人見宗男(機31)

評議員の新任交代

新任評議員(1995、1996年)および交代評議員は以下の通りです。クラスメートの各位はよろしくご協力下さい。

| 学 科       | 1995年卒         | 1996年卒         | 交 替             |
|-----------|----------------|----------------|-----------------|
| 機 械 工 学   | 衣川 正芳<br>神藤 拓也 | 松阪 泰之<br>吉川 訓  |                 |
| 電 気 工 学   | 池田 博文<br>関 貴弘  | 小川 智輝<br>山川 悟  | 梶田 昭美<br>(昭23卒) |
| 応 用 化 学   | 鴻巣 修<br>平岡 弘之  | 池田進太郎<br>黒河 真也 |                 |
| 建 築 学     | 井戸本紀子<br>甲斐 尊賢 | 橋本 頼幸<br>寺山 麦  |                 |
| 土 木 工 学   | 松尾 純也<br>米川 英繁 | 興地 正浩<br>中島 大使 | 細見 馨<br>(昭24卒)  |
| 応 用 物 理 学 | 岩井 克仁<br>濱崎 賢太 | 長谷川 誠<br>坂野 溪帥 | 小林 弘一<br>(昭34卒) |
| 情 報 工 学   | 桑原 直樹<br>野田 哲也 | 野崎 哲也<br>由利 裕行 |                 |
| 生物応用化学    | 小鷦 隆史<br>越野 祐一 | 五十嵐幸一<br>堀 友治  |                 |